



総合政策学部 10周年記念行事

10+

中央大学で6番めのまったく新しい学部——総合政策学部が誕生したのは1993年だった。その10周年記念行事が6月7日行われた。称して「テント」。学生主体のプログラム運営に教職員が参加する「総政スタイル」の祭りを、写真グラフで——。

学生記者 小野光雄+吉野仁美



いろいろな分野別研究が交差する「学生異種格闘技プレゼン」。佐藤愛理子さん（2年＝写真左）は、偏見と誤認が生み出す問題について論陣を張り、会場の質問者と渡り合った。

スリランカでのインターンシップに参加した万膳敬太郎さん（2年＝写真左）らが体験報告。「貧困について考えさせられた」などと述べた。中央は、「国際インターンシップⅡ」の和栗百恵講師。



昼どきには、学生も教授も子供も一緒に餅つき大会。キネをもつのは卒業生（1期生）の中村民人さん。着物姿の返しの手さばきもよくて、ペタン、ペタンとおいしそうな音が響いた。



学部の証人・渥美東洋教授が語る、この10年、今、そして未来。学生に人気の中沢新一教授（写真右）も重い腰をあげて（？）参加。林昇一学部長らによる「未来の総政を考える」パネル討論も行われた。

留学やホームステイで海外に行く学生も多い。世界のあちこちで出会った秘蔵の品物を持ち寄り、題して＜総政版・地球の歩き方＞の展示コーナー。デジタルではないモノたちの質感、テクネーのとりどりの多様性。



アラビア、ペルシャ、インドネシア……。学生たちが、各国のコーヒーやお菓子を提供してコーヒー・スタンドも大盛況。世界の香りに包まれて、話も弾む。

